

のため条件を厳しく変えたり、奨励金の率や金額を少なくして何度も改正しましたが、とうとう昨年の3月急拠受付けを三条・巻地区については打切ってしまいました。しかし、それまでに申し込んだ企業は設備投資等完了後、3年間に渡って増員した従業員を維持している年は、奨励金をもらえるのです。ちなみに申し上げますと、このような補助制度は何十種類もあります。そして、また毎年のように新しい制度が生まれたり、改正したりしています。利用率は少ないのです。そのためもう3年後には、この制度による求人倍率に対する影響はこの地域についてはなくなります。最初に利用した企業はもう終了していますので、峠を今年の3月31日で越えた事になります。だんだんと治って行くでしょう。しかし、その一方で新潟県、特に高速道路のインターに近い市町村へは、企業の立地が多くなると言われていますし、また環日本海時代という事で県全体としても注目されています。2人に1台の自動車社会に入り、自動車で買物をする時代になったのでインターの近くに大型ショッピングセンターを日本に作る。それは東京でも大阪でもなく、日本で一番インターチェンジのある新潟県に出店してみて、実験をし、成功したら全国に展開しようという事で新潟に多くの出店計画があります。そしてまた、三条・燕にも大型店が相次いで出店しています。そうすると先の地域雇用奨励金の制度利用終了によるものと、環日本海時代と高速インターによる店舗の出店、工場、倉庫、商社の建設の動きがあり、私見ですが相殺されるのではないかと考えています。それには、まず現在在籍している社員を大切に使い、気分良く働ける明るい職場作りを行って、社員教育、提案制度、表彰制度、能力給等を使いながら社員を人財に育て上げる事が宜しいと思います。そして社員1人当たりの利益を上げる事により設備投資もでき、昇給や賞与も引き上げられ、それを何年間か続ける事によって他社と比較して魅力ある会社に変身して行きます。そうすれば中途退職者も少なくなり、社員を募集しても見つけやすくなるのです。「人を使うのは面倒だ」とよく言われます。私もその通りだと思います。しかし、また人は無限に近い潜在能力を持っており、現在見える従業員の能力は本人の能力の氷山の一角でしかないのです。その潜在能力をどれだけ引き出せるか、あるいは全く引き出さないかで社員が育つかどうか、会社が発展するかどうかの別れ目となります。社員に自分の潜在能力を気付かせて、それを引き出すチャンスを見逃さず、その心に火をつけると社員は心を燃して仕事に取り組み能力を向上させます。私共が小学生時代、発明王にエジソンがいたと教わりました。私はその頭は特別別格なのだと、当時思っていました。しかし、その後エジソンはどこの学校を受けても不合格となり、今にすればどこの高校にも入れなかったのだと知り、びっくりしました。但し、母親は本人を励まし、お前だっていい所があるはずだから、落胆せずに頑張れなさいと言ったそうです。そして、あれだけ多くの大発明をしたそうです。そのエジソンの言葉に「発明は1%の能力と99%の努力によって成される」と言い残しています。だから社員の育成はいかに大切かだと思いますと共に、自分自身の潜在能力の引き出しを行えば、将来は実に楽しく明るい明日が待っていると思います。

4月30日例会： 夜例会

5月7日例会： 「良寛とわたし」新潟中央短大講師（前三条図書館長）若槻武雄様



三条北ロータリークラブ週報

**ロータリーを高めよ、
思いを尽くし、熱意を尽くし!!**
国際ロータリー会長 パウロ V. C. コスタ 第256地区ガバナー 原 猛

例 会 日
1991. 4 . 23
累 計 No 216
当 年 No 40

会 長／今 井 克 義
幹 事／本 間 茂 男
S A A／堀 川 正 幸

例会日／火曜日 PM12:30～1:30
例会場／三条ロイヤルホテル ☎34-8111
事務局／三条市西四日町3-15-34
ヒューマン・ハーバー内 ☎35-7160

行 事： 卓話「人をめぐる諸問題」佐藤啓策君

出 席： 本日の出席 51名中39名

先週の出席率 51名中44名 86.27%

先週のメークアップ： 4月17日 新潟南RCへ 山上茂夫君

17日 三条RCへ 中條耕二君

22日 三条南RCへ 中條耕二君 石月雅司君 江口 悟君

米山忠俊君 梨木建夫君

ビ ジ タ ー： 三条RCより 大谷幸平君 五十嵐総一君 山本福七君 渡辺惣吉君

加藤征男君 内山辰策君

三条南RCより 高島一男君

会 長 挨 拶： 今井克義

市長選挙、市議員選挙が終わりました。月並みな言い方ですが向こう4年間、それぞれ当選された方々には選挙期間中おっしゃった事、行動された事、そのままにこれから市政を考え、担当して下されば今まで以上に住みやすい三条市が期待できるわけです。さて、話は全く違いますが、我々がふだん例会においてニコニコBOXに代表されますが、いろんな事で箱の中にお金を入れています。皆様方の中には、特に新入会員の方にはなおさらでしょうが一体このお金はどんなことに使われているんだろうかと疑問に思いつつ、何だか良くわからんが、まあしょうがないということで寄付している方もいらっしゃるでしょう。また、ある程度大口の寄付にポールハリスフェローという制度があります。今年度、ポールハリスフェローの寄付をしてメダルを受けるという人が3人います。今日はそのポールハリスフェローのメダルの授与式を行いたいのですが、その前にこの機会に梨本さんからそれぞれのBOXの説明と、ポールハリスフェローとはどんな事を解説していただきます。梨本さんをお願いする理由は2つあります。1つは、今日ポールハリスフェローの表彰を受ける人は、山上さん、佐藤義英さん、それに私です。私もいただく立場ですからポールハリ

スフェローの先輩として梨本さんからお渡しいただきたいという事。そしてもう1つの理由は、私が梨本会長の下で幹事を務めていた時の話です。樋口さんのお宅でファイヤーサイドミーティングを開きました折にこのポールハリスフェローについて話が出て、梨本さんからそれはこういう事だよと説明があった時に隣りにいた私は梨本さんに聞きました。しかし、ポールハリスという人は、一体どんな人なんですか？と。その時の梨本さんの顔を思い出します。ああ、俺は大変な奴を幹事に選んでしまった……。そんな私が皆様方にポールハリスフェローとはなどと、おこがましくてお話できません。では、梨本さん宜しく願います。今日の卓話は佐藤啓策さんの「最近の企業を取り巻く人の問題」です。楽しみにしています。

幹事報告： 本間茂男

◇ロータリーレート変更のご案内

現行 132円 → 1ドル 145円

◇三条RC例会変更

日 時 5月8日（水） 夫人同伴春の味覚グルメ例会

会 場 栃尾宮前旅館 18:30～

◇東京RCより創立70周年記念誌の送付がありました。

◇柿崎RCより10周年記念式典参加礼状が参っております。

◇日本ポリオ・プラス委員会より

ポリオ・プラス募金活動が6月末日で終結となります。拠金累計47億円に上りました。

◎ロータリー財団寄付に依るP・H・Fメダル授与式

今井克義君 佐藤義英君 山上茂夫君

ニコニコボックス：

今井克義君 18日の市内ロータリークラブとライオンズクラブの親睦コンペ、風雨の為ハーフで中止でしたが準優勝でした。佐藤啓策さん卓話ありがとうございます。

吉川吉彦君 五クラブ合同コンペにて18日の天候は大慌れでしたが入賞は別といたしまして大金が入りました。ありがとうございました。佐藤会員の卓話楽しみです。

平松利朗君 ミュージックキャンプ&コンサートの成功を祈って。

加藤実君 佐藤さん卓話ご苦勞様です。

山本充君 佐藤啓策さんのお話を楽しみにお聞きしたいと思います。

山本賢君 佐藤啓策君卓話ご苦勞様です。

高橋彰雄君 ボックスに協力して。

山下厚君 週報に先週小出先生からお話しのあった、脳の血流量を増やすという3つのツボの図解を載せました。ボケ防止にお役立て下さい。

小林満君 ボックスに協力して。

笹原勝治君 佐藤さんよろしく。

て1人の外国人労働者が何人もの家族を連れて来ます。そのために宗教も、言葉も、習慣も多彩な人達が増えます。受け入れに伴う社会的コストは1989年、1350億円かかっています。住宅問題や犯罪が増えて来たそうです。そして遂に帰国して欲しいという事になったのです。日本では、外国人の単純労働者については入国を許可していなかった訳ですが、関東圏を中心に主に東南アジアを中心にアジア人が多く不法就労して大問題になりました。このため、昨年法律（出入国管理及び難民認定法）を改正し、外国人の単純労働者を不法就労させた雇用主に対しても厳しい罰則が課せられるようになりました。外国人労働者にとって、日本で働く事は夢のような高額な給料をもらえる国であるのです。昨年の世界銀行の発表した統計によりますと1988年の分ですが1人当たり国民所得はドル換算で、日本が21,020ドルで西独、米国を抜いてトップです。それに対して英国60%（12,810ドル）ブラジル1/10（2,160ドル）、タイ1/10（1,000ドル）、フィリピン1/30、インド・パキスタン1/30、バングラディシュは170ドルで実に1/100です。これだけの所得差があるため何としても日本で働きたい、日本で1年間働けたら一生楽に食べて行ける国民もいる訳です。そんな事からこれからの時代は人を集められるかどうか企業が発展の鍵となると私は考えています。最も三条・燕の特殊事情として三条・燕の地域は今から約4年前の昭和62年4月当時全国的には円高不況を乗り切ってはいたものの、燕三条地域等全国で輸出を行っている地場産業があって円高不況より脱する事ができずに失業者が多くいる地域、そして今後大量に失業者が増えると見込まれていたところでした。政府ではその対策として、このような地域に新たに工場や店舗等を新築したり設備を増設したりして従業員を増員する事を奨励し、大型の奨励金制度を創設しました。うちの事務所に於ては、いち速く御客様に知らせこの制度の利用をして頂きました。500万円以上の設備投資と3人以上の従業員の増員が条件で設備投資額の30～60%と、その他に賃金の1/3が支給されたものです。中には、5,000万円の設備投資をして6,000万円もらえるというところも出てきました。しかも当初は、申請すれば62年4月まで遡って受け付けるという事でしたので、お客様の中より該当する企業を探して、そして制度の内容を検討し作戦を練り、いかに高額の奨励金を受けるようにするかと協議して計画書を作り、提出しました。それによって、当初企業が考えていられた金額の10倍を超える金額を受給されたお客様もありました。数千万円の高額をもらえばなしになったお客様が相当数でました。当時、こんなエピソードもあります。私の知り合いの社長が工場を新築していただけるのを付近を通りかかった時に見つけたので、急拠その方にお会いして、奨励金の利用のための計画書を役所に提出していますかと聞いてみました。「いやそんなのしていない」というお話しなので「ではすぐ手続したらどうですか」と話をしました。「面倒だからしなくても良い。でも君がしてくれるのであれば半分君にやるよ」とこんな風でした。この企業でも約1千万円出るのです。勿論、私は若干の手続き報酬だけでいいのだと申し上げて、手続きを完了させ、その後奨励金を目度く支給されています。この手続きは、うちの事務所だけで100社近く行い、お客様から大変喜ばれました。そして、この制度の利用が大きく貢献し、その制度創設前には全国的に不況産地として報道されていた燕・三条地域が逆に全国ベスト8に入る求人難地域となったのです。あまりの変わりように労働省は、法律上はとりあえず5年間は受け付けますから利用して下さいと始めたのに、そ